

言語文化学部 「冬の芸術祭」 (二〇一五年二月二日～一八日)

報告 前田和泉

大学は授業が行われるだけの場所ではない。各種研究会や学会、映画上映会や講演会など、日頃学内では多くの興味深いイベントが開催されている。ただ残念なことに、それぞれが個別に行われているため、慌ただしい日常の中で見過ごされてしまうことも少なくない。今回、言語文化学部では、芸術や文化に関わる一連のイベントを一つのシリーズとしてまとめ、総合文化研究所の共催により「冬の芸術祭」と題して開催した。二週間余の間に複数の催しを集中させることによって学内外にアピールし、学生や教職員、学外の人々にも、様々な形で「芸術」に親しんでもらうのが狙いである。

開催されたのは以下の四つのイベントである。

・八木久美子×沼野恭子トークイベント「世界の食と酒を語る」

(二月二日一八時～一九時三〇分、留日センターさくらホール)

・松浦寿夫展覧会～Suite Concarnoise～

(二月九日～一六日、研究講義棟四三二前)

・博多かおるピアノ+レクチャーコンサート「ピアノとお

話で綴る一夜」

(二月二日一八時～二〇時、プロメテウス・ホール)

・川島京子(早稲田大学)講演会「日本バレエの幕開け——白系ロシア人エリアナ・パヴロバの功績」

(二月一八日、一七時三〇分～一九時一〇分、研究講義棟二二六)

開幕イベント「世界の食と酒を語る」では、イスラム研究者である八木久美子先生と、ロシア文化を専門とする沼野恭子先生に、「食」という切り口から世界の文化の多様性についてざっくばらんに語っていただいた。八木先生によれば、「辛く苦しい断食月間」というステレオタイプで捉えられがちなラマダンが、実はにぎやかな祝祭と共食の場であるという。また、一見すると「文化習慣の尊重」のように思われる「ハラール」は、グローバル化に伴う国家・企業戦略でもあるという興味深い指摘もなされた。一方、沼野先生の知人のユダヤ人が、ソ連からアメリカに亡命後、「自由の国」にきた結果、かえってユダヤの戒律を厳格に順守するようになったというエピソードは、「自由と束縛」が一筋縄ではいかない問題であることを感じさせ

せた。「羊を見ると、『かわいい』ではなく『おいしそう』と思う」（八木）、「実はポーランドで鶏を絞めたことがある」（沼野）など、両先生の知られざる秘話も明かされ、会場は大いに沸いた。なお、トーク後はワイン試飲会が行われ、世界各地のワインが来場者にふるまわれた。

松浦寿夫先生は近代西欧美術の専門家だが、自身も画家であり、これまで学外では毎年のように個展を開いてきた。今回、学内初の展覧会が開催され、普段は目立たぬ研究講義棟の一角が一週間にわたって様々な色のキャンバスで彩られることになった。タイトルの〈Suite Concarnoise〉（コンカルノー連作）は、松浦先生の恩師である故・岩崎力（本学名誉教授）のエッセーに由来する。開会日には画家本人によるギャラリートークも行われ、作品の制作プロセスや技法などについて語られた。「絵は足し算の芸術だが、色彩を足し合わせることによって、逆にキャンバスの中に余白を創り出さなければならぬ」とのコメントは、実作者ならではと言えよう。会期中には、キャンバスを前に人々が語り合う姿も見られ、研究講義棟という日常空間の新たな可能性も感じさせる試みとなった。

松浦先生が美術研究者にして画家であるのに対し、博多かおる先生はフランス文学者にしてプロのピアニストである。レクチャーコンサート「ピアノとお話で綴る一夜」は博多先生が学内で行う初の本格的な演奏会で、曲目は、クープラン『クラヴサン曲集』より「さまよえる影」「病み上がりの女」「恋する口シニョール」、ドビュッシー『前奏曲集第二集』より「ヒースの丘」「月の光がふり注ぐテラス」「花火」、チャイコフスキー『四季』より「六月〈舟歌〉」「十二月〈クリスマス〉」、シューマン

『パピヨン』、ショパン『スケルツォ第二番』、そしてアンコールにショパン『ノクターン第二番』。選曲のコンセプトは「一年を振り返る」で、それぞれの曲に関して簡単なレクチャーも交えながら演奏するという「文学者＋音楽家」ならではの催しを、学内外から集まった二百名近い聴衆が堪能した。会場のプロメテウス・ホールは、普段は主に授業や大学の行事に使用され、グランドピアノも日頃は舞台裏で眠っている。この夜、素晴らしい弾き手を得たピアノも、音楽で満たされたホールも、いつもとはまるで見違えるようであった。

「芸術祭」を締めくくったのは、川島京子氏（早稲田大学）の講演「日本バレエの幕開け——白系ロシア人エリアナ・パヴロバの功績」である。ロシア革命後に日本へ亡命した舞踏家パヴロバは、バレエを初めて目にする日本の観衆を自らの舞踊で魅了し、また日本初のバレエスクールを設立して多くの弟子たちを育てた。当時、彼女と同じく革命をきっかけに来日した白系ロシア人舞踏家は少なくない。だが、彼らが日本に定着することなく終わったのに対し、パヴロバは巧みに日本社会と同化し、日本伝統の芸事に見られる「家元制度」を自身のスクールに取り入れることで日本独自のバレエ文化を開花させた。体系的な教育制度を欠く現在の日本バレエ界の欠点はパヴロバに起因するという批判も少なくない。ただ、国境を越えて異文化で生きることが今とは比べものにならないほど困難だった時代に、異郷に根を張り、女手一つで母と妹を養い、最後は帰化して戦地への慰問公演中に倒れたパヴロバの逞しさとしなやかさは驚嘆に値する。講演中に当時の貴重な映像資料を見せていただいたが、そこに映るバレエスクールの子供たちや地元の

東京外国語大学 言語文化学部
～冬の芸術祭～

12月9日(水) 18:00-19:30 (留学生日本語教育センター さくらホール)
八木久美子(本学・イスラム研究) × 沼野恭子(本学・ロシア文学)
トークイベント「世界の食と酒を語る」

12月9日(水)～16日(水) 10:00-20:00 ※13日(日)を除く
(研究講義棟422教室の前)
松浦寿夫(本学・西線近代美術) 展覧会 ～Suite concarnoise～

12月11日(金) 18:00-20:00 (アゴラ・グローバル プロメテウスホール)
博多かおる(本学・フランス文学) ピアノレクチャー・コンサート

12月18日(金) 17:40-19:10 (研究講義棟226教室)
川島京子(早稲田大学・日本バレエ史) 講演会
「日本バレエの幕開け―白系ロシア人エアリア・パヴロバの功績―」

入場無料・一般公開

主催：東京外国語大学 言語文化学部
共催：東京外国語大学 総合文化研究所

場所：東京外国語大学
東京駅前中野区庁舎3111
西武本町線「多摩」駅より徒歩5分/京王線「南田城」駅より徒歩20分
キャンパスマップ <http://www.tufs.ac.jp/about/campusmap.html>
お問い合わせ：前田 和泉 maeda@tufs.ac.jp

東京外国語大学 言語文化学部
冬の芸術祭
八木久美子(本学教授・イスラム研究)
沼野恭子(本学教授・ロシア文学)
トークイベント
“世界の食と酒を語る”

2015年12月2日(水) 18:00-19:30
留学生日本語教育センターさくらホール
入場無料/一般公開

場所：東京外国語大学 府中キャンパス
東京都府中市府中町 3-11-1
西武多摩川線「多摩」駅より徒歩5分
京王線「南田城」駅より徒歩20分

お問い合わせ：前田和泉 maeda@tufs.ac.jp
主催：東京外国語大学言語文化学部 共催：東京外国語大学総合文化研究所

支援者たち、そしてパヴロバ自身の生き生きとした笑顔は、何よりも雄弁に彼女の生きざまを物語っているように思われた。

以上をもつて「芸術祭」は閉幕した。来場者アンケートの結果は概ね好評で、「ぜひ第二回を」との有難いコメントもあったが、怒涛の一二月を終え、真つ白な灰となつて燃え尽きた感のある運営担当としては、今後のことは神の御心のままに委ねたいと思う。

最後になるが、準備にあたってご迷惑をおかけした方々にはこの場を借りてお詫び申し上げます。そして、ご協力、ご支援、ご心配くださつたすべての皆様方には心からの感謝を。

松浦寿夫展
Suite concarnoise

日時：12月9日(水)～16日(水)
10:00～20:00 (12月13日休館日)

場所：東京外国語大学府中キャンパス
研究講義棟422教室の前
(西武多摩川線「多摩」駅より徒歩5分/京王線「南田城」駅より徒歩20分)

主催：東京外国語大学言語文化学部
共催：東京外国語大学総合文化研究所



東京外国語大学言語文化学部《冬の芸術祭》

博多かおる
(本学准教授・フランス文学)
レクチャー・コンサート
～ピアノとお話で綴る一夜～


2015年12月11日(金) 18:00-20:00
アゴラ・グローバル プロメテウスホール
入場無料・一般公開

クーブラン『クラヴァン曲集』より「踊するロシニール」
ドビュッシー『音楽曲集第二巻』より「ヒースの丘」
チャイコフスキー『四季』―12の性格的挿話―より「12月『クリスマス』」
ショパン『イタリヤ』op.9-2
ショパン『スケルツォ 第三巻』op.31 曲

フランス文学者にしてピアノピアニストでもある博多かおる先生がクリスマス・シーズンにぴったりの楽曲と美しいレクチャーで素敵な一夜をみなさまにお届けします。

場所：東京外国語大学 府中キャンパス
東京駅前中野区庁舎3111
西武多摩川線「多摩」駅より徒歩5分/京王線「南田城」駅より徒歩20分
お問い合わせ：前田 和泉 (maeda@tufs.ac.jp)

主催：東京外国語大学 言語文化学部
共催：東京外国語大学 総合文化研究所



主催：東京外国語大学言語文化学部 / 共催：東京外国語大学総合文化研究所

日本バレエの幕開け
白系ロシア人エアリア・パヴロバの功績

講師
川島京子
(早稲田大学)

一般公開
入場無料

～言語文化学部《冬の芸術祭》～

すべては一人の女性からはじまった。

いまや世界舞臺のバレエ大國となった日本。その舞を創ったのは、白系ロシア人エアリア・パヴロバ。彼女がロシアに生まれ、舞臺を歩き出したのは日本舞臺からで、その舞臺には、彼女が創り出したこともなかった日本の舞臺をその舞臺に舞臺で創り出し、日本舞臺のバリエーションを創出して数多くの弟子を生み出した。

数奇な運命をまごうた女性の生きざまを、日本バレエ史研究の第一人者川島京子

日時：2015年12月18日(金) 17:40-19:10
場所：東京外国語大学 府中キャンパス 研究講義棟226教室

お問い合わせ：前田 和泉 (maeda@tufs.ac.jp)